

① 大しめ縄

○中国山地パン	33 島根県と広島県の県境に広がる中国山地。
○頓原の町	34 大国主命が琴を引いたと伝えられている琴引山 <small>ことひきやま</small> の麓に飯南町頓原地区 <small>いひなみちらやうげんげう</small> があります。 35 この町で出雲大社神楽殿の巨大なしめ縄が代々つくられているのです。
○コモの制作	36 今、つくっているのは平成の大遷宮 <small>だいせんぐう</small> によって架け替えられる新たなしめ縄作り手は飯南町しめ縄クラブの人々です。
○ワラの整形	37 刈り取って保存していたワラを手作業で整えていきます。
○コモを編む人	38 そのワラを使ってコモを編みます。
	39 コモは、しめ縄の表面を覆うものです。神楽殿の大しめ縄ともなると、およそ100枚ものコモを編まなくてはなりません。たいへんな数ですね。

○コモを積む	<p>㊦ ここで編まれたコモはしめ縄をつくっている体育館へ運ばれます。</p>
○軽トラが出る	
○体育館の外観	<p>㊧ 長さ13メートルにも及ぶ大きなしめ縄はこの体育館の中でしか作れません。</p>
○体育館中ロング	<p>㊨ ここでは、まず運ばれてきた小さなコモをつなぎ合わせて次第に大きなコモに仕上げていきます。</p>
○コモを編む人	<p>㊩ 静まりかえった体育館の中で、手作業が、黙々と続けられています。</p>
○その手元	<p>㊪ 何年も吊り下げておくものだけに、いましつかりつないでおかないと、大変なことになってしまいます。責任重大な作業です。</p>
○コモから芯へ	<p>㊫ コモの制作と共に、中に入れる芯<small>しん</small>も作られています。</p>
○芯バン	<p>㊬ このような大きさの芯が何本も作られます。</p>
○星野さん	<p>湯沢 「これが1枚目の編み上がったものですか」 星野 「そうですね、1枚目のコモです。ワゴモです、はい」</p>

<p>○ 芯を重ねる</p> <p>○ そのロング</p> <p>○ 作業中の二人</p> <p>○ 作業中ロング</p> <p>○ 芯を移動する</p> <p>○ コモを広げる</p> <p>○ 芯を転がす</p>	<p>湯沢「これを開くと、いま、こちら側にあるような……」</p> <p>星野「そうです、そうです、はい、これを内側にして、 こう巻いてあるという感じですね」</p> <p>「このワラについては稲ハゼというものにワラを掛けて、 そこで乾燥させて できるだけ雨にかからないようにしてとったワラが これなんですね。向こうについてはコンバインで刈って、 そのまま田の中へ投げて自然に乾燥させたものを もってくるということだ、</p> <p>「回か2回雨にかかったようなワラも あると思いますけどね、だからちょっと色も悪いですよね」</p> <p>㉗ 芯を何本も重ねて次第に太くして 行きます。</p> <p>㉘ 手際よく作業を進めている二人は、 いったいどのくらいの経験を 積んでいるのでしょうか。</p> <p>作業者A「いまの大社の神楽殿に架かっているの、 あれを作りました」</p> <p>湯沢「2回目で……」</p> <p>作業者A「これが㉙回目です。まったく の新人で……」</p> <p>作用者B「新人の私です……」</p> <p>㉚ 神楽殿の大しめ縄については新人でも、 普通のしめ縄づくりはベテランのお二人です。</p> <p>㉛ そして、いよいよコモを掛けます。</p> <p>㉜ 広げたコモの上に巨大な芯を</p>
--	--

○ コモを掛ける	<p>転がそうというわけですが、みんなで押してもなかなか動きません。</p> <p>㉔ ようやく動いてほっとしたのもつかの間、こんどは一気にコモを持ち上げて芯に掛けます。</p>
○ コモを閉じる	<p>㉕ その後、コモの大きさと芯の大きさの違いによって生じたタルミを調整。</p> <p>きりっと締まったしめ縄に仕上げます。</p>
○ 休憩 ロング	<p>㉖ 作業の合間の休憩時間。</p>
○ 漬け物 UP	<p>㉗ 頓原では、こういう時につまむのはいつも漬物と決まっています。</p>
○ 食べる人々	<p>㉘ みんなが自慢の漬物を持ち寄って味見しながら、批評し合うというわけです。</p>
○ より合わせ 俯瞰	<p>㉙ 7月8日。</p> <p>しめ縄づくりのクライマックス。より合わせ。</p>
○ 作業。パン	<p>㉚ 2本の大きなしめ縄を体育館の外に出し、2台のクレーンを使ってより合わせていきます。</p>
○ より合わせ 風景	<p>星野「先お人の人たちの技というのがずっ</p>

とまあつながっているんで、われわれもまたできるだけそういう技術的なものも伝えてたいし、それ以上に、つくる人の気持ちですよね、心、それも一緒に伝えて行きたいなという気持ちはずっとしてますよね」

○トラック出発

㉙ その後、大しめ縄をトラックに積んで運び出します。

○神楽殿に搬入

㉚ 7月9日。
神楽殿に新しい大しめ縄が運び込まれます。

○トラックUP

㉛ いよいよ架け替えが始まります。

○古い大しめ縄

㉜ まず、古い大しめ縄を外します。

○新しめ縄を

㉝ そして、新しい大しめ縄を神楽殿へ。

○仕上げ作業

㉞ 所定の位置に運ばれると、しめ縄クラブの人々は、急いで最後の仕上げを施します。

○取り付けロング

㉟ こうして新しい大しめ縄は出来上がりました。
見事な出来栄です。

○話す星野さん

星野 「まあ、常々言っているんですけど、やっぱり注連縄というのは、バランス

の問題なんですよ。バランスがいかに
いいか、悪いか、そこだと思えます、
注連縄は。今回ね、ほんとにね、あの
バランスいいんですよ。吊り木から何
から全部、全てが、かなりの満足度だ
と思いますよ出来具合は・・・」